

2/18住専処理反対市民集会を終わって

実行委員会委員長 山崎 康彦

“住専処理”に6,850億円の税金を使うな！市民集会は、予定通り2月18日（日）午後1時半より、お茶の水の全電通ホールにて開催され、東京では今年始まって依頼の大雪にも拘わらず、200名近い参加者とその後のデモに50名が参加され、それなりに成功したものと思います。本当の成功は、住専処理法案が撤回され、6,850億円の税金投入が削除され、全ての責任者の責任追求が徹底的なされ、責任者の処罰と損害賠償が確定した時であります。これから、休まずに反対運動をより一層拡大して行きましょう。

今回の集会が、それなりに成功したのは、ひとえに、昨年の暮れも押し迫った12月30日に、私の狭い事務所に集まってくれました9名の仲間（梶原、佐藤、小枝、望月、治田、長妻、浅見、長谷川、澤井、）が中心となり運動の輪を広げ、これに皆さんが骨身を惜しまずに協力してくれたお陰であります。この紙面を借りまして、御礼申し上げます。

住専処理反対の取り組みは、正月休み明けの1月9日に都民の会運営委員会で正式に会の運動として承認され、正味1ヶ月の準備期間中に計4回の実行委員会を開催致しました。準備にあたっての第一の問題は、資金でした。会場費だけで16万円もかかりますので、恐らく全部で40万円程度はかかるであろうとの予測で、一口1万円の出資者を募る事にしました。第一回準備会でこの方式での資金集めと出資者＝実行委員として実際に準備に動いてもらう人材の確保を提案し、実際その場で12万円の出資金と15名の実行委員が決定しました。40名の実行委員の確保は、実際の所30名でストップしましたが、出資金の方は、カンパも含めて予定の40万円以上になりました。

第一回準備会では、言いだしっぺの私が実行委員会委員長に、同じく言いだしっぺの小枝さんが副委員長に、会計責任者に浅見さん、広報委員長に望月さん、広報委員に吉田さんが就任しました。第一回実行委員会には、平成維新神奈川の萩野谷さんが吉田さんと共に出席されていて、このお二人は最後まで徹底的に拘わってくれました。萩野谷さんは、フットワークの良さで、全議員763名へのアンケート用紙のポスティングを神奈川の林さんや小枝さんとやってくれたり、集会用の住専問題解説資料を作成してくれました。吉田さんとは、第一回準備会後の飲み会で、何かビジュアルに表現できる事をしたいねとかの雑談をしている時、6,850億円とは、実際一万円札を積み重ねたらどのぐらいの大きさになるのか、一つ表現してみようと盛り上がりまして、当日会場で組み立てました12mx3mx1mの大オブジェとなったわけです。第二回実行委員会では、外部の市民団体等とのパイプ作りの窓口を副委員長として長谷川さんにさせていただき、2/4に新宿や横浜、横須賀で初めての街頭ビラまき、署名運動をやる事、そのためのビラや道具の作成、及び報道30社への通知作業、有識者への集会参加のアプローチを全員で分担して行う事等を決定、準備にかかりました。

2/4日の街頭活動は、初めての事で当初調子が出ませんでした。望月さんが版下作成してくれ、長妻さんの御実家を煩わせて、小枝さん、浅見さんが2日間かけて印刷しました集会のビラを2,000枚用意し、治田さん、佐藤さん、小俣さん、山本さん、空気神社さん、三鍋さん等がビラまきと署名集めをし、吉田さん作成の6,850億円札をパネル表示し、水原さんから借りてきたワイヤレス

マイクで梶原さんや浅見さん、吉田さんが交代で住専処理の出鱈目を訴え、10本の都民の会の旗がはためく中、赤くて目立つ住専処理に税金を使うな！のバッジを付けて、寒空の中3時間頑張りました。当日は、大崎さんを始めとするガラガラにっぽんの女性たちも駆けつけてくれました。新宿は総勢30名、横浜、横須賀は10名の動員でした。

メデイアの露出は、写真付き含めて7社が取り上げてくれ成功でした。反対署名活動は、2/4と2/11の街頭活動で約500名、吾妻さんと治田さん、梶原さんが個人で集めてくれたのがそれぞれ200名、100名、50名、パソコン通信での反対署名が、100名、インターネットで70名、集会会場で150名本日現在計1,170名です。埼玉の濱田さんの発案で集会当日より開始されましたファックスリレーでの反対署名活動は、未だ集計は取れていませんが、着実にその輪を広げていますので、皆さんの御協力お願い致します。

所謂有識者と呼ばれる人たちの中で特に私個人で印象深い人は、中村敦夫さん、高野孟さん、マッドアマンさん、城南電気の宮地社長です。中村敦夫さんは、今回の集会の実行委員では有りませんでした。外部のネットワークへの広報活動を活発にさせていただいた三鍋さん宛ての自筆のファックスで、住専処理反対のターゲットは違うが一緒にやっけて行く仲間として信頼している旨の発言があり、感激しました。小異を捨てて大同につく事こそ今一番大事な事です。

高野孟さんは、集会のパネラーとしての発言内容が評論家の無責任な言いっぱなしではなく、御自分が拘わっていらっしゃる市民運動がベースとなっている事が強く伝わってき